



コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク セカンド・パーティ・オピニオン



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

株式会社 小松製作所

コマツグループ° サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2022 年 9 月 26 日

Ref. Nr.: PRJN-419254-2022-AST-JPN-01

目次

| | |
|--|----|
| 報告書サマリー | 3 |
| Ⅰ. まえがき | 5 |
| Ⅱ. スコープと目的 | 7 |
| Ⅲ. コマツと DNV の責任 | 7 |
| Ⅳ. DNV 意見の基礎 | 8 |
| Ⅴ. 評価作業 | 9 |
| Ⅵ. 観察結果と DNV の意見 | 10 |
| スケジュール-1 重要業績評価指標(KPIs)とサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPTs) | 18 |
| スケジュール-2 サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク適格性評価手順 | 19 |

発行履歴

| 発行日 | 内容 |
|------------|------|
| 2022年9月26日 | 初版発行 |
| | |

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

報告書サマリー

コマツグループ(以下、コマツ)は、株式会社 小松製作所、子会社 213 社及び関連会社 42 社で構成されています(2022 年 3 月 31 日時点)。石川県小松市において 1921 年 5 月に創業して以来、「建設機械・車両」、「リテールファイナンス」、「産業機械他」の 3 部門にわたって、製品の研究開発、生産、販売、サービス、販売金融に至る幅広い事業活動を国内並びに海外で展開しています。コマツは、経営の基本として、「品質と信頼性」を追求し、「企業価値」である、我々を取り巻く社会と全てのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを掲げています。また事業活動を通じて、安全で生産性の高いスマートでグリーンな未来の現場の実現をお客さまと共に目指しています。

このような取り組みを進める中、コマツは 2019 年 4 月に発表した 2022 年 3 月期をゴールとする中期経営計画にて ESG の経営目標を新設し、その中の環境負荷低減の目標として、CO₂ 排出を 2030 年で 50%減(2010 年対比)、再生可能エネルギー使用率を 2030 年で 50%とすることを掲げました。その後、2020 年 6 月に「コマツグリーンボンド フレームワーク」を策定し、同年 7 月にコマツとして初のグリーンボンドを発行しました。加えて、2021 年 9 月に発行した統合報告書「コマツレポート 2021」では、2050 年までに CO₂ 排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルに向けた取り組みに関する長期ビジョンを新たに掲げました。2022 年 4 月に発表した 2025 年 3 月期をゴールとする中期経営計画の中にも、上記の CO₂ 排出削減、再生可能エネルギー使用率、カーボンニュートラルに関する目標が明確に掲げられています。

コマツは、サステナビリティ・リンク・ボンドを国際的に定められた枠組みに適合した形で実行するため、「コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク(以下フレームワーク)」を確立しています。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は、コマツから提供された資料及び情報を基にフレームワークの適格性を評価しました。

適用した基準及びガイドラインは、サステナビリティ・リンク・ボンド原則(国際資本市場協会(ICMA), 2020)(以下、SLBP)、サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン(環境省, 2022)(以下、SLBGLs)です。

以下に示す SLBP-1~SLBP-5 は、SLBP に記載されている 5 つの要素に対する観察結果と DNV の意見です。

SLBP-1. 重要業績評価指標(KPIs)の選定 :

コマツは、コマツが掲げる「2050 年カーボンニュートラル」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」に向けた包括的なサステナビリティ戦略において重要な指標として、表-1 に示す、以下の 2 つを KPI として選定しています。KPI1 は Scope1 と Scope2、KPI2 は Scope3 カテゴリー 11 に関連する指標です。

KPI1 : 生産による CO₂ 排出(原単位)

KPI2 : 製品使用による CO₂ 排出(原単位)

KPIs の選定は、合理的なプロセスを経たものであり、KPIs は明確に定義され、測定及び検証が可能であり、SLBP に従ったロバスト性、及び信頼性を有すると考えられます。

SLBP-2. サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPTs)の設定 :

コマツは各 KPI に対して、表-1 に示す以下の SPTs を設定しました。

SPT1 : 「生産による CO₂ 排出(原単位)」を 2024 年及び 2030 年に 2010 年対比で、それぞれ 45%及び 50%削減

SPT2 : 「製品使用による CO₂ 排出(原単位)」を 2024 年及び 2030 年に 2010 年対比で、それぞれ 24%及び 50%削減

DNV は、コマツの SPTs がコマツのサステナビリティとビジネスの戦略双方において有意義であり、密接に関連付いており、予め設定されたタイムラインに従って重要な改善を示していることを確認しました。また、SPTs の達成が、コマツとしてのカーボンニュートラルの実現に向けた取組みと一致していることを確認しました。DNV はレビューを通じて、コマツの計画が、2024 年及び 2030 年の SPTs 達成に対して実行可能であり、目標を達成できる見込みがあると結論付けました。

SLBP-3. ボンドの特性：

フレームワークに基づくサステナビリティ・リンク・ボンドの財務的特性は、KPIs によって定められた SPTs のパフォーマンスによって影響を受けます。この影響は、債券利率変動との連動であり、債券に関連する正式な文書において、フレームワークに基づき定義された期間/期日における特定のトリガー事象(SPTs 達成状況)によってボンド実行の都度、目論見書等の起債関連書類内で規定されることを確認しました。

SLBP-4. レポートリング：

レポートリングには SLBP で求められる情報が含まれる計画であり、レポートリングは少なくとも年に 1 回公開されることが、フレームワークにより定められています。

SLBP-5. 検証：

コマツは、外部評価機関により、KPI に関連するデータについて独立した検証を毎年受ける予定です。

表-1 コマツ サステナビリティ・リンク・ボンドの KPIs と SPTs

| KPIs | SPTs |
|--|--|
| KPI1：生産による CO ₂ 排出(原単位) | SPT1.1：2024 年に 2010 年対比で 45%削減 SPT1.2：2030 年に 2010 年対比で 50%削減 |
| KPI2：製品使用による CO ₂ 排出(原単位) | SPT2.1：2024 年に 2010 年対比で 24%削減 SPT2.2：2030 年に 2010 年対比で 50%削減 |
| KPIs の説明 | SPTs の説明 |
| 各 KPI は、コマツの中期経営計画と密接に関連する項目が設定されています。 これらは、コマツの中期経営目標における「ESG」項目の経営指標「環境負荷低減」の中核となる KPI であり、コマツが定めた方法により定量的かつ継続的に測定可能です。 | 各 SPT は、コマツの長期的 CO ₂ 排出削減目標を見据え、中期経営目標と連動した数値が設定されています。 これらは、コマツが 2017 年 4 月に初回認定、2022 年 3 月に更新認定を受けている「科学に基づく目標(SBT)：2℃を十分に下回る(Well-below 2℃)」における目標の達成に貢献し、同業他社と比較して野心的で“従来通りの事業(Business as Usual)”を超え得るものです。 2024 年及び 2030 年に設定した SPTs がトリガー判定に至るまでの途中経過は、2022 年から 2024 年まで、及び 2024 年から 2030 年までの線形補間を目安としています。 |

DNV は、フレームワークをはじめとするコマツより提供された関連文書・情報に基づく評価により、コマツが確立したフレームワーク及びこのフレームワークに従って実行されるサステナビリティ・リンク・ボンドが、関連する枠組みである SLBP/SLBGLs で要求される基準を満たし、適格性があることを確認しました。

I. まえがき

i. 発行体について

コマツグループ(以下、コマツ)は、株式会社 小松製作所、子会社 213 社及び関連会社 42 社で構成されています(2022 年 3 月 31 日時点)。石川県小松市において 1921 年 5 月に創業して以来、「建設機械・車両」、「リテールファイナンス」、「産業機械他」の 3 部門にわたって、製品の研究開発、生産、販売、サービス、販売金融に至る幅広い事業活動を国内並びに海外で展開しています。コマツは、経営の基本として、「品質と信頼性」を追求し、「企業価値」である、我々を取り巻く社会と全てのステークホルダーからの信頼度の総和を最大化することを掲げています。また事業活動を通じて、安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場の実現をお客さまと共に目指しています。

ii. 発行体の ESG/SDGs への取り組み

コマツは、事業活動を通じて社会に貢献することを基本姿勢としています。2025 年 3 月期をゴールとする中期経営計画の策定に先立ち、コマツの事業上の重要性和サステナビリティへのインパクト(ステークホルダーにとっての重要性+環境・社会・経済へのインパクト)の 2 つの側面から評価を行い、重要性の高い分野・課題を抽出し、「環境」「顧客」「社員」「倫理・統治」「人権」「地域社会」の 6 分野をマテリアリティとして特定しました。またそれらのうち、事業上の重要性和サステナビリティへのインパクトが高い「環境」「顧客」「社員」「倫理・統治」の 4 つを、特に優先度の高い最重要課題の分野と位置づけ、この 4 分野への活動を中期経営計画の成長戦略に反映させています(図-1 参照)。

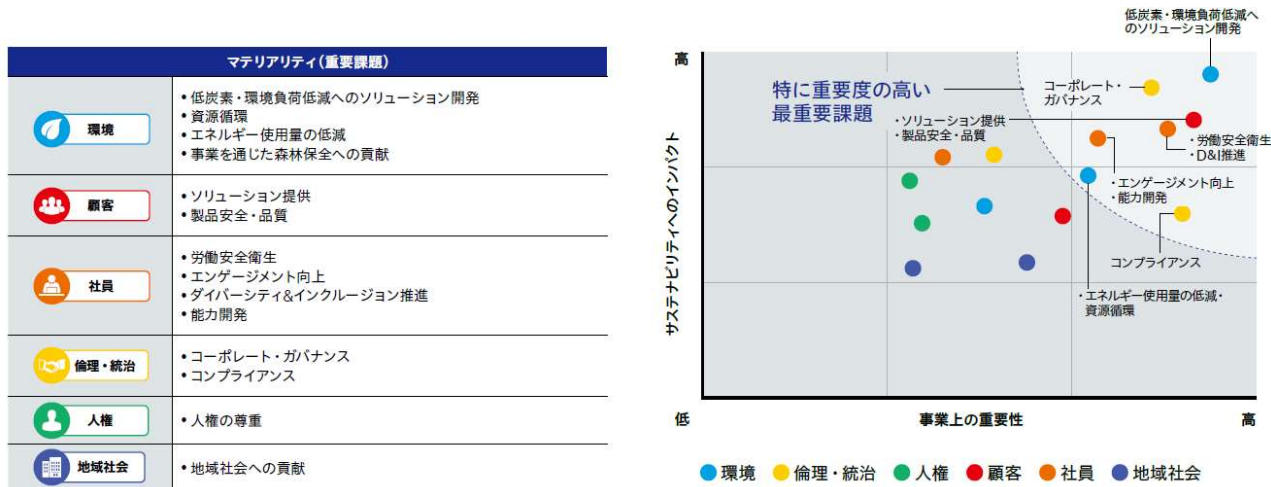


図-1 コマツにおけるマテリアリティ

2021 年 12 月に制定した「サステナビリティ基本方針」に基づき、事業活動を通じて社会に貢献していくことを目指しています。

さらに、2022 年 4 月に発表した 2025 年 3 月期をゴールとする中期経営計画「DANTOTSU Value - Together, to "The Next" for sustainable growth」において、マテリアリティ、サステナビリティ基本方針、SDGs の関係を整理し、マテリアリティに取り組むことで ESG 課題解決と収益向上の好循環を加速し、持続的な成長を目指すとしています。具体的には、「イノベーションによる成長の加速」、「稼ぐ力の最大化」、「レジリエントな企業体質の構築」を成長戦略の 3 本柱として掲げています。また同中期経営計画においても、2022 年 3 月期をゴールとする中期経営計画において新設した ESG 経営目標を更新しています(図-2 参照)。

| | SDGsとの関係 | マテリアリティ (重要課題) | ESG課題の解決に向けた活動テーマ (主なKPI) |
|-------|---|--|--|
| 人と共に |  ジェンダー平等  働きがいと経済成長  不平等をなくす  パートナーシップ | [社員] [人権] <ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生 エンゲージメント向上 D&I推進 能力開発 人権の尊重 | 安全で安心して働ける職場環境づくり (労働災害関連指標) 社員エンゲージメントの向上 (エンゲージメントサーベスコア) ダイバーシティ&インクルージョンの推進 (女性、障がい者比率) 個人の能力開発と事業成長の実現 (DX・AI人材教育) 人権デューデリジェンスの推進 (実績開示) |
| 社会と共に |  産業と技術革新  まちづくり  つくる・つかう責任  パートナーシップ | [顧客] [倫理・統治] [地域社会] <ul style="list-style-type: none"> ソリューション提供 製品安全・品質 ガバナンス コンプライアンス 地域社会への貢献 | スマートコンストラクション推進による建設現場の生産性向上 (導入現場数) 持続可能な資源開発を実現する製品・ソリューションの提供 (AHS累積導入台数) 顧客現場の安全性・生産性向上ソリューション: 技術開発 (自動化、安全装置 開発ステージ) 環境・需要変動に対応力のあるバリューチェーンの構築 (アフターマーケット事業: 売上伸び率、マルチソーシング比率) ガバナンスの充実、コンプライアンスの徹底 (実績開示) |
| 地球と共に |  クリーンエネルギー  産業と技術革新  つくる・つかう責任  気候変動への対策  陸の豊かさ  パートナーシップ | [環境] <ul style="list-style-type: none"> 低炭素・環境負荷低減へのソリューション開発 資源循環 エネルギー使用量の低減 事業を通じた森林保全への貢献 | 地球環境負荷ゼロ工場 (CO2低減, 再生エネ使用、水使用量) 顧客現場におけるCO2排出削減 (製品使用のCO2低減、電動化建機開発) 持続可能な循環型林業を支援するソリューション提供 (林業機械事業関連指標: 売上伸び率、植林、スマート林業等) 循環型ビジネス (リマン) の促進 (リマン事業: 売上伸び率) |

図-2 ESG の課題解決に向けた活動テーマ

iii. 発行体の環境への取組み

コマツは、従前の中期経営計画において、その中で環境負荷低減の目標として、CO₂ 排出を 2030 年で 50%減 (2010 年対比)、再生可能エネルギー使用率を 2030 年で 50%とすることを掲げました。加えて、2021 年 9 月に発行した統合報告書「コマツレポート 2021」では、2050 年までに CO₂ 排出を実質ゼロとするカーボンニュートラルに向けた取組みに関する長期ビジョンを新たに掲げました。さらに、今回の中期経営計画(2022 年度～2024 年度)においては、「カーボンニュートラル」をコマツの経営目標におけるチャレンジ目標の一つとして掲げ、2050 年までにその達成を目指し、脱炭素社会に向けた価値づくりに挑戦することを宣言しました。その実現に向け、図-2 に示す活動テーマごとに具体的な施策を設定し、取組みを進めています。

iv. サステナビリティ・リンク・ボンド フレームワークについて

コマツは、サステナビリティ・リンク・ボンドを国際的に定められた枠組みに適合した形で実行するため、「コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク(以下フレームワーク)」を確立しています。

このフレームワークが具体的に参照した枠組みについては後述の II 項に記載されています。

発行体名称：株式会社 小松製作所

フレームワーク名：コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク

外部レビュー機関名：DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日：2022 年 9 月 26 日

II. スコープと目的

コマツは DNV に「コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンド」(以下、本ボンド)の発行前評価を委託しています。DNV におけるボンド発行前評価の目的は、本ボンドが下表に示されている基準に合致していることを確認し、本ボンドの適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、コマツとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、本ボンドの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

適用又は参照される基準

| No. | 基準もしくはガイドライン | 発行者 | 適用レベル* ¹ |
|-----|--------------------------------|----------------------|---------------------|
| 1. | サステナビリティ・リンク・ボンド原則(SLBP) | 国際資本市場協会(ICMA), 2020 | 適用 |
| 2. | サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン(SLBGLs) | 環境省, 2022 | 適用 |

*1 適用：各原則やガイドライン共通の 5 つの要素全てに対する適格性を評価した

III. コマツと DNV の責任

コマツは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、DNV に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについてコマツ及びボンドの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において DNV は、コマツから提供された情報及び事実に依拠にしています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って、DNV は、コマツの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、資金調達者にとってより柔軟なサステナビリティ・リンク・ボンド評価手順(以下、手順)を適用するために、SLBP/SLBGLs の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は SLBP/SLBGLs に基づくサステナビリティ・リンク・ボンドに適用可能です。

DNV はこの手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供いたします。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、サステナビリティ・リンク・ボンドが「透明性があり、持続可能で、信頼性をもった投資の機会を提供する」「KPI 及び SPT を通じて、重要であり、定量的であり、事前に決定され、野心的であり、定期的に監視され、そして外部で検証することが可能な発行体の ESG の達成を奨励する」というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのサステナビリティ・ボンドに対する基準は、以下の 5 つの要素にグループ分けされます。

要素1. 重要業績評価指標(KPIs)の選定

サステナビリティ・リンク・ボンドの資金調達者は、サステナビリティ戦略に示されている包括的な目標と、その目標がどのように SPTs と連携するかを投資家または貸し手に明確に伝える必要がある。KPI は、信頼性が高く、資金調達者の核となるサステナビリティ戦略及びビジネス戦略にとって重要であり、関連する産業セクターの ESG 課題に対応し、組織の管理下に置かれるべきである。

要素2. サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPTs)の設定

SPTs は野心的かつ有意義であり、現実的なものとすべきである。SPTs は、誠意をもって設定され、かつ、事前に設定したパフォーマンス・ターゲットのベンチマークに関連するサステナビリティの改善に基づき設定されるべきである。

要素3. ボンドの特性

ボンドには、選定された KPIs に関し、事前に設定した SPTs を達成した場合(もしくは達成しなかった場合)の、財務的及び/または構造的な特性を含めるべきである。ボンドに関連する文書では、KPIs と SPTs の定義、SLB の財務的及び/または構造的な特性の変化についての記載が要求される。SPTs が十分に計算または観察できない場合に備え、何らかの予備の代替案が説明されるべきである。

要素4. レポーティング

資金調達者は、選定した KPIs のパフォーマンスに関する最新情報、及び SPTs に対するパフォーマンス、及びファイナンスの財務的及び/または構造的な特性に対する影響のタイミングを示す検証レポート(要素 5 を参照)を公開し、簡単にアクセスできるようにすべきである。そのような情報は、ファイナンスに参加している期間、投資家または貸し手に少なくとも年に 1 回開示すべきである。

要素5. 検証

資金調達者は、SPTs に対するパフォーマンスを、少なくとも年に 1 回、関連する専門知識があり、資格を有する第三者機関による検証を受けなければならない。SPTs に対するパフォーマンスの検証結果は、公開されるべきである。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

サステナビリティ・リンク・ボンド実行前アセスメント

- 資金調達者特有の評価手順の作成。スケジュール-2 を参照してください。
- 資金調達者より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。
- 資金調達者へのインタビュー、及び関連する文書のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の報告書作成。

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 重要業績評価指標(KPIs)の選定

- DNV は、コマツのサステナビリティに関連する KPIs をレビューし、選定した KPIs が重要であり、コマツの中核となるサステナビリティ経営に関連していることを確認しました。
- 表-1 に示す、コマツが定める KPIs(生産による CO₂ 排出(原単位)、製品使用による CO₂ 排出(原単位))は、コマツが掲げる「2050 年カーボンニュートラル(経営目標におけるチャレンジ目標)」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」に向けた包括的なサステナビリティ戦略において重要な指標です。
- コマツにおいて重要となるのは、「2050 年カーボンニュートラル」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」「エネルギー使用量の低減(環境のマテリアリティ)」です。KPI1「生産による CO₂ 排出(原単位)」は、自社の Scope1 及び Scope2 に関係し、KPI1 を削減することによりサプライチェーン全体の CO₂ 排出量の削減に貢献することから、KPI として選択することは十分に適切です。また、KPI1 は、「コマツ中期経営計画(2022 年度～2024 年度)」の中核となる KPI として位置づけられています。
- 同様に KPI2「製品使用による CO₂ 排出(原単位)」は、コマツのサプライチェーン全体の CO₂ 排出量の約 9 割を製品使用による CO₂ 排出量(Scope3 カテゴリー11)が占めるため、その削減に貢献する主要な KPI です。
- DNV は、コマツが選択した KPIs は、日本政府が掲げる目標である「2050 年カーボンニュートラル」に整合的であり、比較可能な指標として適切に選定されていることを確認しました。
- DNV は、KPIs への取組が「コマツ中期経営計画(2022 年度～2024 年度)」で掲げる「カーボンニュートラルに向けた価値(モノ・コト)づくりの挑戦」と密接に関連しており、コマツの目指す「イノベーションによる成長の加速」に貢献し、収益拡大の重要な推進力になると考えます。また、KPI は「カーボンニュートラルに向けた取り組みに関する長期ビジョン」の実現とサステナビリティ経営に関わる目標とコマツのビジネス戦略の両立に貢献すると考えられます。
- DNV は、KPIs としての CO₂ 排出(原単位)は一貫した手法(コマツ独自の算出方法)に基づいて測定可能であり、外部検証可能であり、外部参照に対してベンチマークを行うことができると結論付けています。DNV は、サプライチェーンの CO₂ 排出量がロバストで信頼性の高い指標であると結論付けています。
- DNV は、コマツによって選定された KPIs が明確な評価スコープと計算方法を備えていることを確認しました。詳細は、スケジュール-2 を参照して下さい。

選定した KPIs のリスト

- ✓ KPI1 : 生産による CO₂ 排出(原単位)
- ✓ KPI2 : 製品使用による CO₂ 排出(原単位)

定義、スコープ及びパラメータ

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定した各 KPI の明確な定義 | <input checked="" type="checkbox"/> 明確な計算方法 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

選定した KPIs の関連性、ロバスト性(頑健性)及び信頼性

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定された KPIs 発行体の持続可能性と事業戦略に関連性があり、中核的で重要であると証明されている | <input checked="" type="checkbox"/> KPIs が外部検証可能であるという証拠 |
| <input checked="" type="checkbox"/> KPIs は一貫した方法に基づいて測定可能又は定量可能であることが証明されている | <input checked="" type="checkbox"/> KPIs はベンチマークされることが可能であるという証拠 |
| | <input type="checkbox"/> その他 |

(2) サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPTs)の設定

- DNV は、表-1 で示す SPTs は、コマツが掲げる「2050 年カーボンニュートラル」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」に定められる目標及びそれらが参照する政府の目標である「2050 年カーボンニュートラル」をサポートしているという観点及び具体的な計画が内在していることを確認しており、野心的、現実的かつ有意義であることを確認しました。また、SPTs の達成が、コマツとしてのカーボンニュートラルの実現に向けた取組みと一致していることを確認しました。
- コマツから提供された情報に基づき、DNV は、SPTs が現実的であり、計画が実行可能であり、目標を達成できる見込みがあると結論付けました。
- コマツが設定する、生産による CO₂ 排出(原単位)を 2024 年/2030 年に 2010 年対比で 45%/50%削減(SPT1.1/SPT1.2)、製品使用による CO₂ 排出(原単位)を 2024 年/2030 年に 2010 年対比で 24%/50%削減(SPT2.1/SPT2.2)は、コマツが 2017 年 4 月に初回認定、2022 年 3 月に更新認定を受けている「科学に基づく目標(SBT) : 2℃を十分に下回る(Well-below 2℃)」における目標の達成に貢献し、同業他社と比較して野心的で“従来通りの事業(Business as Usual)”を超え得るものです。
- DNV は、コマツにより設定された SPTs が KPIs の改善に紐づいていることを確認しました。コマツの KPIs/SPTs への取組は、コマツのサステナビリティ戦略実行の推進力になることが期待されます。
- DNV は、SPTs 設定のプロセスがベンチマークアプローチの適切な組み合わせに基づいていることを確認しました。
 - 2021 年までのコマツの実績及び適切なデータに基づく KPIs の情報により、2030 年までの目標設定が指針として示されています。
 - SPTs は、コマツが SBTi から Well-below 2℃認定を得ていること、及びコマツの直近のパフォーマンス水準に基づき設定されており、野心的であると評価されています。
 - DNV は、SPTs が政府の「2050 年カーボンニュートラル」目標と適切な関連性があると結論付けています。また、このフレームワークは、パリ協定の目標達成と整合する国の指針と整合しています。コマツの「2050 年カーボンニュートラル」の実現に向けて、2 つの KPI/SPT とそれぞれのアクションプランでサポートされます。
- DNV は、SPTs 設定が以下の通り、適切に開示されていることを確認しました。
 - SPTs 達成のタイムラインは、2024 年/2030 年までについて設定されています。2024 年に設定した SPTs がトリガー判定に至るまでの途中経過は、2021 年から 2024 年までの間を線形補間することを目安とします。2030 年についても、2024 年から 2030 年までの間について同様の考えで目安を定めます。
 - CO₂ 排出量削減に関する SPTs の基準年は 2010 年です。これは 2011 年の東日本大震災による日本の CO₂ 排出係数の悪化及びコマツの事業運営への影響の両方を含まないようにするためであり、長期的な CO₂ 排出量削減の道筋において合理的であると言えます。
 - フレームワーク、アクションプラン及びロードマップ等を通じて、生産による CO₂ を 2010 年対比で 2024 年/2030 年に 45%/50%削減(原単位削減率)、製品使用による CO₂ を 2010 年対比で 2024 年/2030 年に 24%/50%削減(原単位削減率)がどのように達成されるかについて詳細に説明されています。

表-1(再掲) コマツ サステナビリティ・リンク・ボンドの KPIs と SPTs

| KPIs | SPTs |
|---|--|
| KPI1 : 生産による CO ₂ 排出(原単位) | SPT1.1 : 2024 年に 2010 年対比で 45%削減 SPT1.2 : 2030 年に 2010 年対比で 50%削減 |
| KPI2 : 製品使用による CO ₂ 排出(原単位) | SPT2.1 : 2024 年に 2010 年対比で 24%削減 SPT2.2 : 2030 年に 2010 年対比で 50%削減 |
| KPIs の説明 | SPTs の説明 |
| <p>各 KPI は、コマツの中期経営計画と密接に関連する項目が設定されています。</p> <p>これらは、コマツの中期経営目標における「ESG」項目の経営指標「環境負荷低減」の中核となる KPI であり、コマツが定めた方法により定量的かつ継続的に測定可能です。</p> | <p>各 SPT は、コマツの長期的 CO₂ 排出削減目標を見据え、中期経営目標と連動した数値が設定されています。</p> <p>これらは、コマツが 2017 年 4 月に初回認定、2022 年 3 月に更新認定を受けている「科学に基づく目標(SBT) : 2℃を十分に下回る(Well-below 2℃)」における目標の達成に貢献し、同業他社と比較して野心的で“従来通りの事業(Business as Usual)”を超え得るものです。</p> <p>2024 年及び 2030 年に設定した SPTs がトリガー判定に至るまでの途中経過は、2022 年から 2024 年まで、及び 2024 年から 2030 年までの線形補間を目安としています。</p> |

(SPTs の)合理性と、野心度合い

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs が大幅な改善をもたらすことの証拠 | <input checked="" type="checkbox"/> 選定されたベンチマークと基準の関連性と信頼性が証明されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs が発行体の持続可能性と事業戦略に合致していることの証拠 | <input checked="" type="checkbox"/> SPTs は事前に定義されたタイムライン(時間軸)において設定されていることが証明されている |
| | <input type="checkbox"/> その他 |

ベンチマーク手法

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体自身のパフォーマンス(過去実績等) | <input checked="" type="checkbox"/> (発行体の)同業他社 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 科学的根拠の参照 | <input type="checkbox"/> その他 |

追加的な開示

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再計算又は調整を行う可能性の説明 | <input checked="" type="checkbox"/> 達成に向けた発行体の戦略の説明 |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs の達成に影響を及ぼす可能性のある重要な要因の特定 | <input type="checkbox"/> その他 |

(3) ファイナンスの特性

DNVは、フレームワークの下で実行されるサステナビリティ・リンク・ボンドは、SPTsの達成状況が財務的な特性に影響を与えることを確認しました。ここでの影響とは、債券の金利を指します。フレームワークでは、特定のトリガー事象に関連する目標達成判定の観測時期が決定されています。

- DNV は、コマツが適切なフォールバックメカニズム(予備の代替案)について検討を行い、その結果、計算または観察できないリスクは極めて小さいことから、現時点で別の SPTs や計算方法を設定しないことを確認しました。
- DNV は、コマツが個々の KPIs/SPTs の達成状況に応じて利率を複数設定する可能性があることを確認しました。
- 今後発行されるボンドでは、利率の変動に加えて、ボンドの目的と関連する寄付や、その他の適切なペナルティ・インセンティブとなる方法の等の何れか又は複数を選択する場合があります。これらはコマツの内部プロセスによって決定され、債券に関連する法定書類等で開示されます。
- コマツは、事業環境の変動/事業構造の変革等が生じた場合、当該事象が外部要因かコマツの経営判断の結果によるものかを問わず、合理的な理由がある場合において、社内会議で議論の上、KPIs 及び SPTs を変更する可能性を説明しています。
- コマツが KPIs 及び SPTs を変更する場合、外部レビューを取得する予定であることを確認しました。

財務的インパクト

- ☒ 利率の変動
- ☒ その他：今後発行されるボンドでは、ボンドの目的と関連する寄付や、その他の適切なペナルティ・インセンティブとなる方法の等の何れか又は複数を選択する場合があります。

構造的特性

- ☒ その他：2024 年及び 2030 年の目標に対して何らかの方法論を用いて(線形補間など)、対象年度の目標値を設定してトリガー判定を行う場合もある。また、トリガー判定の結果が以降の利払いに反映されることが目論見書等(法定開示文書又はその他の一般に開示する方法)の中で明記される予定である。

(4) レポーティング

- DNV は、SLBP が要求する以下の内容について、必要な情報がタイムリーに公開されることを確認しました。
 - KPIs のパフォーマンス：サステナビリティ・リンク・ボンド発行後、償還完了までに、少なくとも年 1 回、外部機関等からの検証等を受け、ウェブサイト等にて開示します。
 - SPTs 達成状況：独立した第三者機関による年次検証の対象となり、財務的な特性（債券の金利）又はその他の財務的なインセンティブの決定に利用されます。
 - KPIs、SPTs の調整：買収や会社分割、合併、内製化またはアウトソーシング等、コマツに重大な若しくは構造上の変化が生じた場合、KPI の測定方法が変化した場合、計算方法またはデータへのアクセスの改善が生じた場合、コマツの SPT の野心度合いについて DNV 等と協議し、必要な場合には変更します。

レポート情報

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 選定された KPIs のパフォーマンス | <input checked="" type="checkbox"/> 検証保証報告書 |
| <input checked="" type="checkbox"/> SPTs の野心度合い | <input checked="" type="checkbox"/> その他：トリガー判定を行った際の財務的インパクトに関する情報(例：利率情報)。必要な場合には、KPIs、SPTs の調整、再計算結果の妥当性。 |

頻度

- | | |
|--|-----------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半期 |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

開示方法

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 公開される財務報告書に記載 | <input type="checkbox"/> 公開されるサステナビリティ報告書に記載 |
| <input type="checkbox"/> 適時公開される文書に記載 | <input checked="" type="checkbox"/> その他：発行体ウェブサイト等 |
| <input type="checkbox"/> 外部レビューを受けたレポーティング | |

保証報告書のレベル

- | | |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 限定保証 | <input type="checkbox"/> 合理的保証 |
| | <input type="checkbox"/> その他： |

(5) 検証

- DNV は、コマツが少なくとも年に 1 回、SPT トリガー事象について関連する専門知識を持つ資格のある外部評価機関により、KPIs に関連するデータに対して独立した検証を受ける予定であることを確認しました。

頻度

- 年次 半期
- その他

重要な変更

- 境界(範囲) KPI の測定方法
- SPTs の調整(変更)

評価結果

DNV は、コマツから提供された情報と実施された業務に基づき、コマツがサステナビリティ・リンク・ボンド適格性評価手順の要求事項を満たしており、SLBP/SLBGLs で示されている「KPI 及び SPT を通じて、重要で、定量的で、事前に決定され、野心的で、定期的に監視され、そして外部で検証された、持続可能な(ESG)目標の達成を奨励する」という定義・目的と一致しており、「透明性があって、持続可能で、信頼性をもった投資の機会を提供する」ことを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2022 年 9 月 26 日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



宮本 育昌

チームリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV: The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete.

スケジュール-1 重要業績評価指標(KPIs)とサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPTs)

KPIs 重要業績評価指標

| KPIs | 説明 |
|---|--|
| <p>KPI1 : 生産による CO₂ 排出(原単位)</p> <p>KPI2 : 製品使用による CO₂ 排出(原単位)</p> | <p>各 KPI は、コマツの中期経営計画と密接に関連する項目が設定されています。</p> <p>これらは、コマツの中期経営目標における「ESG」項目の経営指標「環境負荷低減」の中間となる KPIs であり、コマツが定めた方法により定量的かつ継続的に測定可能です。</p> |

SPTs サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット

| SPTs | 説明 |
|---|--|
| <p>SPT1.1 : 2024 年に 2010 年対比で 45%削減</p> <p>SPT1.2 : 2030 年に 2010 年対比で 50%削減</p> <p>SPT2.1 : 2024 年に 2010 年対比で 24%削減</p> <p>SPT2.2 : 2030 年に 2010 年対比で 50%削減</p> | <p>各 SPT は、コマツの長期的 CO₂ 排出削減目標を見据え、中期経営目標と連動した数値が設定されています。</p> <p>これらは、コマツが 2017 年 4 月に初回認定、2022 年 3 月に更新認定を受けている「科学に基づく目標(SBT) : 2℃を十分に下回る(Well-below 2℃)」における目標の達成に貢献し、同業他社と比較して野心的で“従来通りの事業(Business as Usual)”を超え得るものです。</p> <p>2024 年及び 2030 年に設定した SPTs がトリガー判定に至るまでの途中経過は、2022 年から 2024 年まで、及び 2024 年から 2030 年までの線形補間を目安としています。</p> |

スケジュール-2 サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク適格性評価手順

下記のチェックリスト(SLBP-1~5)は、SLBP の要求項目を基に、コマツグループ サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク適格性評価用に作成された DNV 評価手順です。

SLBP-1 重要業績評価指標(KPIs)の選定

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV 観察結果 | | | |
|--|---|--|--|---|------|--------------------------------------|--|
| 1a | <p>中核となるサステナビリティ戦略及びビジネス戦略に対する KPIの重要性</p> | <p>発行体のサステナビリティ・パフォーマンスは、外部または内部のサステナビリティKPIを使用して測定される。KPI は、発行体の中核となるサステナビリティ戦略及びビジネス戦略にとって重要であり、業界セクターの関連する環境、社会、及び/またはガバナンスの課題に対応し、経営陣の管理下にある必要がある。KPIは、発行体の現在及び/または将来の経営にとって高い戦略的重要性がある必要がある。</p> <p>発行体は、KPIが選定された根拠とプロセス、及びKPIがサステナビリティ戦略にどのように適合するかを投資家に明確に伝えることが推奨される。</p> | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - コマツレポート2021 - 中期経営計画 <p>関係者へのインタビュー</p> | <p>DNV は、コマツのサステナビリティに関連する KPIs をレビューし、選定した KPIs が重要であり、コマツの中核となるサステナビリティ経営に関連していることを確認しました。コマツは、「2050 年カーボンニュートラル(経営目標におけるチャレンジ目標)」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」「エネルギー使用量の低減(環境のマテリアリティ)」を掲げています。コマツのサプライチェーン全体の CO₂ 排出量の削減において、自社の Scope1 及び Scope2 を削減することが欠かせません。そのため、KPI1「生産による CO₂ 排出(原単位)」が「コマツ中期経営計画(2022 年度~2024 年度)」の中核となる KPI として位置づけられています。また、KPI2「製品使用による CO₂ 排出(原単位)」は、コマツのサプライチェーン全体の CO₂ 排出量の約 9 割を製品使用による CO₂ 排出量が占めるため、サプライチェーン全体の CO₂ 排出量の削減に貢献する主要な KPI として位置づけられています。</p> <p>DNV は、コマツが選定した KPIs は、日本政府が掲げる目標である「2050 年カーボンニュートラル」に整合的であり、比較可能な指標として適切に選定されていることを確認しました。</p> <p>DNV は、KPIs への取組が「コマツ中期経営計画(2022 年度~2024 年度)」で掲げる「カーボンニュートラルに向けた価値(モノ・コト)づくりの挑戦」と密接に関連しており、コマツの目指す「イノベーションによる成長の加速」に貢献し、収益拡大の重要な推進力になると考えます。また、KPIs は「カーボンニュートラルに向けた取り組みに関する長期ビジョン」の実現とサステナビリティ経営に関わる目標とコマツのビジネス戦略の両立に貢献すると考えられます。</p> <p>選定した KPIs は以下の通りであり、スケジュール 2 で詳しく説明されています。</p> <table border="1" data-bbox="1346 1235 2033 1353"> <thead> <tr> <th>KPIs</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KPI1 : 生産による CO₂ 排出(原単位)</td> </tr> <tr> <td>KPI2 : 製品使用による CO₂ 排出(原単位)</td> </tr> </tbody> </table> | KPIs | KPI1 : 生産による CO ₂ 排出(原単位) | KPI2 : 製品使用による CO ₂ 排出(原単位) |
| KPIs | | | | | | | |
| KPI1 : 生産による CO ₂ 排出(原単位) | | | | | | | |
| KPI2 : 製品使用による CO ₂ 排出(原単位) | | | | | | | |

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV 観察結果 |
|------|------------------|--|--|---|
| 1b | KPIの可測性 | <p>KPI は、一貫した方法論に基づいて、測定可能または定量化可能であり、外部で検証可能であり、ベンチマーク可能となる必要がある。つまり、SPT の野心性のレベル評価を容易にするために、外部の参照または定義を可能な限り使用する必要がある。</p> <p>可能であれば発行体は、過去に開示された年次報告書、サステナビリティレポート、またはその他の非財務報告にすでに含まれている KPI を選択して、投資家が選定した KPI の過去のパフォーマンスを評価できるようにすることが推奨される。KPI が過去に開示されていない状況では、発行体は、可能な範囲で、少なくとも過去 3 年間にカバーする過去の外部検証済み KPI 値を提供する必要がある。</p> | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - コマツレポート2021 - 中期経営計画 - 生産CO₂算出要領及び施策 - 製品CO₂算出要領及びタイムライン <p>関係者へのインタビュー</p> | <p>DNV は、KPIs としての CO₂ 排出(原単位)は 1c に記載する一貫した手法(コマツ独自の算出方法)に基づいて測定可能であり、外部検証可能であり、外部参照に対してベンチマークを行うことができると結論付けています。</p> <p>DNV は、コマツが選定した KPIs は、中期経営計画における KPIs と紐づいており、その計画と整合するよう社内において経年のパフォーマンスが管理されていることを確認しました。</p> |
| 1c | KPIの明確な定義 | <p>KPI の明確な定義を提供し、適用可能な範囲または境界、及び計算方法を含める必要がある</p> | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - ESGデータブック 2021 <p>関係者へのインタビュー</p> | <p>DNV は、コマツによって選定された KPIs が明確な評価スコープと計算方法を備えていることを確認しました。具体的には、以下のように計算されます。</p> <p>KPI1：各工場における直接排出*¹ 及び間接排出*² の合計/製品製造に伴い発生する加工費用</p> <p>KPI2：機種ごとのライフにわたる CO₂ 排出量*³/作業量あたり</p> <ul style="list-style-type: none"> *1 GHG プロトコルに準拠して算出した Scope1 *2 GHG プロトコルに準拠して算出した Scope2 *3 製品性能と作業効率に基づき算出した CO₂ 排出量 <p>注)CO₂ 排出係数は ESG データブック記載の数値を用いる。</p> <p>DNV は、この計算方法が、コマツの排出原単位の評価方法として相関が高いことを確認しました。</p> |

SLBP-2 SPT(サステナビリティパフォーマンスターゲット)の設定

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV観察結果 |
|------|-------------|--|--|---|
| 2a | 有意義な目標設定 | SPT は、発行体のビジネスにとって野心的、現実的かつ有意義であるものであり、発行体の包括的な戦略的持続可能性/ESG 戦略と一致している必要がある。 | 確認した文書類 - フレームワーク - コマツレポート2021 - 中期経営計画 - 生産CO ₂ 算出要領及び施策 - 製品CO ₂ 算出要領及びタイムライン 関係者へのインタビュー | DNVは、SPTsが、コマツが掲げる「2050年カーボンニュートラル」、「脱炭素社会に向けた価値づくり」に定められる目標及びそれらが参照する政府の目標である「2050年カーボンニュートラル」をサポートしているという観点及び具体的な計画が内在していることを確認しており、野心的、現実的かつ有意義であることを確認しました。また、SPTsの達成が、コマツとしてのカーボンニュートラルの実現に向けた取組みと一致していることを確認しました。 |
| 2b | 有意義な目標設定 | SPT は、各 KPI の重要な改善を示し、“通常の事業”における軌道を超えている必要がある。可能であれば、ベンチマークまたは外部参照と比較されており、債券の発行前(または発行と同時に)に設定された事前定義されたタイムラインで決定される必要がある。 | 確認した文書類 - フレームワーク - コマツレポート2021 - 中期経営計画 - 生産CO ₂ 算出要領及び施策 - 製品CO ₂ 算出要領及びタイムライン 関係者へのインタビュー | コマツが設定する、生産による CO ₂ 排出(原単位)を 2024 年/2030 年に 2010 年対比で 45%/50%削減(SPT1.1/SPT1.2)、製品使用による CO ₂ 排出(原単位)を 2024 年/2030 年に 2010 年対比で 24%/50%削減(SPT2.1/SPT2.2)は、コマツが 2017 年 4 月に初回認定、2022 年 3 月に更新認定を受けている「科学に基づく目標(SBT) : 2℃を十分に下回る(Well-below 2℃)」における目標の達成に貢献し、同業他社と比較して野心的で“従来通りの事業(Business as Usual)”を超え得るものです。 |
| 2c | 目標設定のベンチマーク | 目標設定は、ベンチマークアプローチの組み合わせに基づく必要がある。 | 確認した文書類 - フレームワーク | DNVは、SPTs設定のプロセスがベンチマークアプローチの適切な組み合わせに基づいていることを確認しました。 |

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV観察結果 |
|------|----------------|---|---|---|
| | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 可能な場合、選定した KPI で最低 3 年間の測定実績がある、発行体自身のパフォーマンスが推奨され、可能な場合は KPI に関するガイダンス 2. 比較可能または利用可能な場合は発行体の同業者に対する、または、業界あるいはセクター基準に対する SPT の相対的な位置づけ 3. 科学的根拠に基づくシナリオ、または絶対レベル(炭素収支など)、公式の国/地域/国際目標、利用可能な最善の技術、あるいはその他のプロキシ、の体系的な参照 | <ul style="list-style-type: none"> - コマツレポート2021 - 中期経営計画 - 生産CO₂算出要領及び施策 - 製品CO₂算出要領及びタイムライン 関係者へのインタビュー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年までのコマツの実績及び適切なデータに基づくKPIsの情報により、2030年までの目標設定が指針として示されています。 ・ SPTsは、コマツの直近のパフォーマンス水準に基づき、野心的であると評価されています。 ・ DNVは、SPTsが政府の「2050年カーボンニュートラル」目標と適切な関連性があると結論付けています。また、このフレームワークは、パリ協定の目標達成と整合する国の指針と整合しています。コマツの「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、2つのKPI/SPTとそれぞれのアクションプランでサポートされます。 |
| 2d | 目標設定の開示 | <p>目標設定に関する開示は、以下を明確に参照する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標達成のタイムライン、トリガーイベント、及び SPT の頻度 2. 必要に応じて、KPI の改善のために選択された検証済みのベースラインまたは参照ポイント、及び使用されるそのベースラインまたは参照ポイントの理論的根拠 3. 必要に応じて、ベースラインの再計算または試算調整が行われる状況 4. 競争と機密性の考慮事項を考慮して、可能であれば、発行体がそのような SPT に到達する方法 | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク - コマツレポート2021 - 中期経営計画 関係者へのインタビュー | <p>DNVは、SPTs設定が以下の通り、適切に開示されていることを確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SPT達成のタイムラインは、2024年/2030年までについて設定されています。2024年に設定したSPTがトリガー判定に至るまでの途中経過は、2022年から2024年までの線形補間を目安としています。 ・ CO₂排出量削減に関するSPTの基準年は2010年です。これは2011年の東日本大震災による日本のCO₂排出係数の悪化及びコマツの事業運営への影響の両方を含まないようにするためであり、長期的なCO₂排出量削減の道筋において合理的であると言えます。 ・ フレームワーク、アクションプラン及びロードマップ等を通じて、生産によるCO₂排出(原単位)を2010年対比で2024年/2030年に45%/50%削減、製品使用によるCO₂排出(原単位)を2010年対比で2024年/2030年に24%/50%削減がどのように達成されるかについて詳細に説明されています。 <p>コマツから提供された情報に基づき、DNVは、SPTsが現実的であり、計画が実行可能であり、フレームワークで概説されているSPTs目標を達成できる見込みがあると結論付けました。</p> |

SLBP-3 債券の特性

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV観察結果 |
|------|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---|
| 3a | 債券の特性 SPTの財務的/構 造的影響 | SLBには、KPIが事前定義されたSPTに到達するかどうかに基づいて、トリガーイベントに関連する財務的及び/または構造的影響を含める必要がある。 | 確認した文書類 - フレームワーク 関係者へのインタビュー | DNVは、フレームワークにトリガー事象が含まれていることが、SLBPで記載される要求事項に準拠していることを確認しました。 DNVは、フレームワークの下で実行されるサステナブル・リンク・ボンドは、特定のSPTsの観測時期とパフォーマンス要件を伴うトリガー事象及びその影響範囲が、目標達成と財務的なインセンティブと連動することを確認しました。 |
| 3b | 債券の特性-フォ ールバックメカニズ ム | SPTを十分に計算または観察できない場合のフォールバックメカニズムについて説明する必要がある。 発行体は、必要に応じて、潜在的な例外的なイベントを考慮に入れるために、債券の文書に文言を含めることを検討することもできる。 | 確認した文書類 - フレームワーク 関係者へのインタビュー | DNVは、コマツが適切なフォールバックメカニズム(予備の代替案)について検討を行い、その結果、計算または観察できないリスクは極めて小さいことから、現時点で別のSPTsや計算方法を設定しないことを確認しました。 コマツは、事業環境の変動/事業構造の変革/KPIsの変更が生じた場合等、当該事象が外部要因かコマツの経営判断の結果によるものかを問わず、合理的な理由がある場合において外部認証機関等と議論の上、KPIs及びSPTsに変更をもたらす可能性があることを説明しています。 |

SLBP-4 レポートニング

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV観察結果 |
|------|---------|---|---|--|
| 4a | レポートニング | <p>SLBの発行体は、下記に関して、公開し、すぐに利用でき、簡単にアクセスできるようにしておく必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 選択したKPIのパフォーマンスに関する最新情報(必要な場合はベースラインを含む) 2. SPTに対するパフォーマンスと関連する影響、及び債券の財務的及び/または構造的特性に対するそのような影響のタイミングを概説する、SPTに関連する検証保証レポート 3. 投資家がSPTの野心のレベルを監視できるようにする情報 <p>このレポートは、定期的に、少なくとも年に1回、いずれの場合も、SLBの財務的及び/または構造的特性の潜在的な調整につながるSPTパフォーマンスの評価に関連する任意の日付/期間に公開する必要がある。</p> | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク <p>関係者へのインタビュー</p> | <p>DNVは、SLBPが要求する以下の内容について、必要な情報がタイムリーに公開されることを確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KPIsのパフォーマンス：サステナビリティ・リンク・ボンド発行後、償還完了までに、少なくとも年1回、外部機関等からの検証等を受け、ウェブサイト等にて開示します。 ・ SPTs達成状況：独立した第三者機関による年次検証の対象となり、財務的な特性(債券の金利)又はその他の財務的なインセンティブの決定に利用されます。 |

SLBP-5 検証

| Ref. | 基準 | 要求事項 | 評価作業 | DNV観察結果 |
|------|--------|---|---|--|
| 5a | 外部レビュー | <p>発行体は、少なくとも年に1回、各SPTトリガーイベントについて、関連する専門知識を持つ資格のある外部レビューアによって、各KPIの各SPTに対するパフォーマンスに対して独立した検証を受ける必要がある。</p> | <p>確認した文書類</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワーク <p>関係者へのインタビュー</p> | <p>DNVは、コマツが少なくとも年に1回、SPTトリガー事象について関連する専門知識を持つ資格のある外部評価機関により、KPIsに関連するデータに対して独立した検証を受ける予定であることを確認しました。</p> |